

【特集】国際シンポジウム「ファーウェイと米中貿易戦争—中国のイノベーションは何処へ？」

趣旨説明

「フラット化する世界と米中対立の課題」

李 春利

『フラット化する世界』の著者トーマス・フリードマン（Thomas Friedman）がファーウェイトップの任正非氏との対談の中で、次のように話している。

「いま、世界では二つの物語が上映中である。一つは米国と中国の間の貿易戦争であり、もう一つはファーウェイと米国の物語である。私個人からみれば、ファーウェイと米国の物語の重要性は米中貿易戦争より高い。」（2019年9月9日、中国・深圳）

ここでは、中国経済経営学会と愛知大学国際中国学研究センターの共催による国際シンポジウム「ファーウェイと米中貿易戦争—中国のイノベーションは何処へ？」を開催するにあたって、今回の全国大会の実行委員長として、三つの課題を提起し、趣旨説明に代えさせていただきたい（付録を参照）。

1. 3Gと4G技術は、グローバル化の進展にとって、いわば推進器やアクセルのような役割を果たしてきた。ところが、5G時代のデジタルインフラは、米中対立により、果たして太平洋を隔てて米国主導と中国主導の二つに分けることができるのだろうか。日本はどちらの陣営に入るのだろうか。
2. 米中対立は、当初の貿易不均衡是正の段階から次世代技術をめぐる紛争、いわゆる「テクノヘゲモニー」（techno-hegemony、技術による覇権）の争いという新しい段階へとエスカレートしている。もしそれが現実

だとすれば、グローバル・サプライチェーン（国際供給網）はどのように変容していくのか。経済合理性よりも政治的な分断によって、いわゆる「デカップリング」（decoupling、分離）が進むのだろうか。

3. 中国式イノベーションモデルは、中国における社会経済ネットワーク（もしくはエコシステム）に埋め込まれた周辺の資源を動員し、先進国からの技術のスピルオーバー効果と国際分業のフラグメンテーションを最大限に活用することにより、産業の高度化と独自の産業プラットフォームの構築を実現してきたことに、その大きな特色を見出すことができる（概念図を参照）。

ここに示した概念図は、中国式イノベーション



ンモデルと関係ファクターのイメージを描いたものである（李春利「中国企業の革新力④ コア技術の自主習得志向」、日本経済新聞・経済教室、2018年7月10日を参照）。図の上部にあるのは、先進国のスマートな統合型産業システムである。また、フラグメンテーション（fragmentation）とは、従来垂直的に統合された企業内の生産工程が細分化され、国を越えた生産の分担や物流、および貿易が行われるという新しい国際分業体制のことを指している。具体的には、工程分業はその重要な形態であり、すなわち、一つの製品を工程別に分けて各国最適な立地で生産することである。

そのような国際分業が進展する中で、世界の重要な産業プラットフォームとして中国の資源動員力が大きく発揮されてきた。先進国企業からの直接投資や委託生産を通じて、技術のスピルオーバー効果（spill-over effect、溢出効果）が累積されていく。さらに、中国独自の技術開発やイノベーションの成果との間に相乗効果が生まれ、その結果、産業技術の底上げ、ひいては産業の高度化が実現していく。

ところが、今回の米中摩擦で、コア技術を押さえている先進国企業と中国企業の間にある技術ギャップの大きさが改めて認識された。改革

開放が始まってからすでに40年、中国のイノベーションは米中摩擦を契機に大きな転換点を迎えるようになった。米中対立の先鋭化は、果たして1978年の改革開放、2001年のWTO加盟に続く第3波の構造改革の起爆剤になりうるのだろうか。また、外圧を国内改革にうまく利用してきた過去2回の経験は、先進国へのキャッチアップから中国式イノベーションの本格的な確立に寄与することができるのだろうか。日中両国は過去半世紀にわたり、自由貿易体制の擁護とWTOルール の堅持を通じて、多大な利益を享受することができた。これから日中両国は、米英の単独行動主義と脱グローバリゼーションの大波に如何に対応すべきかが、今後の大きな課題になるだろう。

（り しゅんり

中国経済経営学会2019年度全国大会
実行委員長・愛知大学教授）

付記：この趣旨説明は、2019年11月16日に愛知大学で開催された国際シンポジウム時の筆者の発言に一部加筆修正を加えてまとめたものである。

付録

国際シンポジウム「ファーウェイと米中貿易戦争—中国のイノベーションは何処へ？」

愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)
中国経済経営学会

共催シンポジウム



ファーウェイと米中貿易戦争

中国のイノベーションは何処へ？

2019 11/16 SAT

12:30～17:30(12:15開場)

愛知大学名古屋校舎 講義棟 L307 教室

使用言語：日本語・中国語(通訳あり) 聴講無料・要申込(下記参照)
後 援：中日新聞社、一般社団法人 東海日中貿易センター

● 挨拶 川井 伸一 (愛知大学 理事長・学長)
趣旨説明 李 春利 (中国経済経営学会全国大会実行委員長)

第一部：● 基調講演 12:45-14:25

講演者： 吳 曉波 (浙江大学社会科学学部部長、愛知大学ICCS訪問教授)

演 題：「中国のイノベーションモデル」

講演者： 陳 浩 (ファーウェイ・ジャパン代表取締役社長)

演 題：「5G時代のイノベーションとインテリジェント社会の共創」

第二部：● 研究報告 14:35-15:45

報告者： 丸川 知雄 (東京大学教授)

演 題：「ファーウェイと中国のイノベーションモデル～日本の視点から」

報告者： 大橋 英夫 (専修大学教授)

演 題：「米中貿易戦争と日本の対応」

報告者： 鈴木 隆 (愛知県立大学准教授、愛知大学ICCS客員研究員)

演 題：「米中貿易戦争と日中関係」

第三部：● パネルディスカッション (登壇者全員) 15:50-17:30

コメンテーター： 苑 志佳 (立正大学教授)、 今道 幸夫 (大阪市立大学客員研究員)

モデレーター： 李 春利 (愛知大学教授)

● 総括 高橋 五郎 (中国経済経営学会会長)

<申込み/問い合わせ> (中国経済経営学会 学会員は学会にてお申込みください)

愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)事務局 URL:<http://iccs.aichi-u.ac.jp>

〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町4-60-6 TEL:052-564-6120

申込方法：氏名、所属、電話番号、Emailアドレスを記入の上、Emailでお申込みください。

申込み先：iccs-event@ml.aichi-u.ac.jp(受領メールが返信されましたら、受付完了)

申込締切
11/13(水)

